

百 熊崎シズさん百歳褒賞 百歳おめでとうございます

2月10日（月） 特別養護老人ホーム飛驒寿楽園

古川町是重の熊崎シズさんが百歳を迎えられました。これに合わせ、市民福祉部の柚原部長らが施設を訪問し、祝金やお祝いの花束を熊崎さんに渡しました。

柚原部長は「百歳おめでとうございます。これからも健康でお元気でいてください」とお祝いの言葉を贈りました。

この日は、ご家族や入居している施設の方々が集まり、熊崎さんの百歳をお祝いしました。

熊崎さんは「お祝いしていただいて嬉しいです」と喜びを話し、息子の謙一さんと伸二さんは「これからも元気でいてもらいたいです」と話していました。



花束を手にする熊崎さん

市 飛驒市ドローンジュニア検定 市内の子どもらがドローン操縦を学ぶ

2月2日（日） 市役所

飛驒市ドローンジュニア検定が2日、市役所で行われ市内の小中学生がドローンの操縦などを学びました。

この教室は、子どもたちにドローンに親しんでもらおうと市が初めて開催。富山ドローンスクールの森本康之室長を講師に招き、小中学生11人が参加しました。

子どもたちは、ドローンはどこでも飛ばしていい物ではないことなどドローンに関するルールを学んだ後、屋内で小型ドローンの操縦と専用のアプリを使ったプログラミングに挑戦しました。

教室終了後、参加者へ市が発行した「飛驒市ドローンジュニア検定」修了証が渡されました。



ドローンについて学ぶ参加者

飛 宮城保育園へ木のおもちゃ贈呈 驒産の木材に触れてほしい

2月12日（水） 宮城保育園

飛驒産の木材に触れてほしいと市内で家具製造を行う「家具工房くくのち」の岩塚泰男さんが12日、宮城保育園を訪れ、木製ブロックを寄贈していただきました。

この日は、遊戯室に全園児が集まり、岩塚さんから「ドングリやサクラの木を使ったブロックです。みんなで楽しくいろいろな遊び方を考えて」とあいさつ。その後代表の園児に木製ブロックの入った木箱を手渡しました。

受け取った園児らは、ブロックをつなげて双眼鏡、信号機、ロボットや家などを組み立て、木のぬくもりがいっぱいの木製ブロックでとても楽しそうに遊んでいました。



木製ブロックを園児に手渡す岩塚さん

地 YCKプロジェクト報告会2019 域を舞台にした取り組みの成果を報告

2月7日（金） 飛驒市文化交流センター

吉城高校の生徒が行うYCKプロジェクト報告会が7日、飛驒市文化交流センターで開かれ、吉城高校生、古川中学校生徒や市民ら約600人が参加しました。

YCKプロジェクトは、地域連携によるさまざまな授業や地域課題を舞台とした教育活動を行い、課題解決能力を身に付けるため実施されている取り組みです。

報告会では、YCK活動報告として和光園での高齢者との交流、古川祭の英語ボランティア、小中学校での学習サポーターのほか、台湾新港郷での研修やYCK活動を通じた進路実現など、YCKで学んだ成果を発表しました。



生徒によるプロジェクト発表

交通安全栄誉章緑十字銀章を受章 交通安全に対する意識向上を目指す

2月21日（金） 市役所

飛騨地区交通安全協会の下堂前会長が21日、本年度の交通安全栄誉章緑十字銀章を受章した喜びと交通安全への更なる協力を都竹市長に伝えました。

この表彰は、(一社)全国交通安全協会が長年交通安全活動に尽力した功績がある方を表彰するもので、下堂前会長は長年におよぶ交通安全への貢献がたたえられ表彰を受けました。

下堂前会長は「市民の皆さんが被害者にも加害者にもならないよう尽力してきた。今後も市民の皆さんの交通安全に対する意識の向上に力を入れていきたい」と話しました。



表彰状と勲章を手にする下堂前会長

河合小学校の児童が紙すき体験 伝統の山中和紙で自身の卒業証書を作る

2月12日（水） 河合町 いなか工芸館

河合小学校の6年生児童が12日、河合町のいなか工芸館で児童自身の卒業証書に使用する山中和紙の紙すきを行いました。

この日は同校6年生8人が参加し、同町で和紙作りを行う柏木一枝さんの指導の下、紙すきを行いました。

児童らは、型枠で原料となる「こうぞ」をすき、水分を取った後、型枠から外し、乾燥機に乗せて和紙作りを行いました。乾燥機に乗せた後は、樺の葉でシワをとるなど、きれいな和紙になるよう仕上げを行いました。

紙すきを行った児童は「自分ですくのは難しかったけど楽しかった。完成が楽しみです」と話していました。



山中和紙の紙すきを行う児童

岐阜大学と飛騨市との連携に関する協定締結式 岐阜大学と連携し地域活性化を図る

2月28日（金） 岐阜大学

市と岐阜大学の間で包括連携協定の締結式が28日、同大で行われました。

この協定は、同大と市が多様な分野で包括的に密接な協力関係を築き、連携を深めることで、人材育成や活力ある地域社会の形成・発展を図るものです。

内容は、人口減少問題を解明する「過疎学(仮称)」の研究や関係人口プロジェクトへの参画、吉城高校、飛騨神岡高校の地域連携教育への協力など多岐にわたります。

協定式では、同大の森脇久隆学長と都竹市長が出席し、協定書を取り交わしました。



協定書を手にする森脇学長と都竹市長

大正大学と包括連携協定を締結 地域創生や人材育成を推進

2月20日（木） 市役所

市と大正大学(東京都)との間で、地域創生や人材育成に関する包括連携協定の締結式が25日、市役所で行われました。

この協定は、同大地域創生学部2年で古川町出身の坂下拓夢さんが、市に連携を提案したことをきっかけに締結したもので、今後地域活性化や人材育成に向けた連携・協力を実施していくものです。

この日は、同大地域構想研究所の柏木正博副所長と浦崎太郎教授、坂下さん、同大1年の山村一颯さんが出席。協定式では、柏木正博副所長と都竹市長が協定書を取り交わしました。



(右から) 浦崎教授、柏木副所長、坂下さん、山村さん



に 第64回飛騨神岡初金毘羅宵祭 ぎやかな創作山車が町内を練り歩く

2月22日(土) 神岡町市街地

真冬の熱い祭り「第64回飛騨神岡初金毘羅宵祭」が22日、神岡町市街地で開かれ、にぎやかな創作山車が町内を練り歩きました。

この祭は、金毘羅様に商売繁盛・家内安全を祈願するため、江戸木遣り保存会と手古舞の行列を先頭に、さまざまな意匠の神輿や山車が列を成し、金毘羅堂のある洞雲寺を目指して、町内を盛大に練り歩く祭りです。

日中には、特設ステージで双葉保育園児によるダンスやダルマ落とし大会、よさこい演舞などが披露されました。

夕方からの行列は、神岡江戸木遣り保存会をはじめ、地元企業や同級会、サークル、富山よさこいチームなど16社中が参加し、趣向を凝らした山車や神輿曳きながら約1キロメートルの距離を練り歩きました。



出発式の様子



町内を練り歩く社中



洞雲寺を目指し、階段を駆け上がる社中

市 第2回荒垣秀雄顕彰作文コンクール表彰式 内の生徒児童が最優秀賞に選ばれる

2月22日(土) 神岡振興事務所

神岡町出身で旧神岡町名誉町民でもある故荒垣秀雄氏の功績に光を当てる「第2回荒垣秀雄顕彰作文コンクール」の表彰式が22日、神岡振興事務所で開かれ受賞者や関係者ら約25人が参加しました。

表彰式では、最優秀の荒垣秀雄天声人語賞に河合小学校6年生の岩田桃果さん、古川中学校1年生の千原ほのかさんが選ばれ、都竹市長から賞状が手渡されました。

都竹市長は「受賞を機に自分自身の物の見方や考え方、表現の仕方、人に伝えていくことの難しさなどの面白さを追求して磨いていただきたい」とあいさつしました。



作文コンクール入賞者の皆さん

立 第2回荒垣秀雄顕彰作文コンクール表彰式 ちだるまから自由の女神へラブレター

2月22日(土) 神岡町 洞雲寺

神岡町の銅像「立ちだるま」からアメリカの「自由の女神」に送る恋の短歌を詠んだコンクールの表彰式が22日、同町の洞雲寺で開かれました。

立ちだるまが自由の女神の方角を向いて立っていることに着想を得て、町おこしにつなげようと地元有志らが企画し、2回目の開催となりました。今回は一般、高校生以下の両部門に、全国の661人から計1,953首の応募がありました。

表彰式では、受賞者、審査員、来賓ら21人が出席し、実行委員会の冨家圭吾委員長から受賞者へ表彰・記念品が授与されました。



短歌コンクール受賞者と関係者の皆さん